

那珂川町図書館

オススメの1冊

『サブキャラたちの日本昔話』 齊藤 洋／作 偕成社 児童書【933 冊】

みなさんは“昔話”と聞いて何の話を思い浮かべますか？

日本には様々な昔話がありますが、最近は某 CM でおなじみの三太郎を思い浮かべる方が多いと思います。今回紹介する本はこの三太郎のお話に登場する動物が主人公です。

本書のまえがきには「わたしが聞いたことを、聞いたとおりに書きとったものです。(中略)話をしてくれた語り手たちもおとなです。ですから、話はすべて、おとながおとなに話したものです。わたしはそれを一字一句ちがえないように書きとったのです。」とあります。これは、浦島太郎に登場する“竜宮国右大将の玄武”と、桃太郎に登場する“イヌの源三郎”、金太郎に登場する“クマの金太郎”が著者である齊藤洋さんに語って聞かせたお話なのです。

なぜ玄武は浦島太郎を竜宮城へ連れて行き、源三郎は桃太郎と鬼退治に行き、金太郎は金太郎と相撲を取ったのでしょうか……。人間ではなく、3匹の視点でお話が進むので、それぞれの事情や考えなどを知ることができます。

この本を読み終わった後は、昔から知っているお話が違うお話に感じられるかもしれません。

『博多の恩人・聖一国師と博多祇園山笠』 井上 政典／総指揮 洪田武春／漫画
集広舎 【K188.8 冊】

今年も博多祇園山笠の東流れて担がれていた昇き山「思君慈母成鬼神(きみおもえばじぼもきしんとならん)」がミリカローデン那珂川で展示されていましたね。

この博多祇園山笠、起源は鎌倉時代までさかのぼります。駿州(現在の静岡県)出身の僧侶、聖一国師が博多祇園山笠の祖とされていますが、なぜ静岡の僧侶が博多に来たのか、どうして昇き山を担ぎ「おっしょい」と掛け声をするのかを知っていますか。

この本では、聖一国師の生い立ちから博多祇園山笠という祭の始まり、“^{てのこ}手拭”の色の意味や“博多手一本”等の山笠のしきたりを漫画で紹介しています。また、コラムでは『「聖一国師」の呼び名について』や『聖一国師が日本にもたらしたもの』、『現在の承天寺一山報賽式』など、博多や聖一国師についての豆知識を紹介しています。

1241年に始まり、770年以上続く博多祇園山笠。山笠についてより深く知ることで、いままでとは違った見方ができるようになるかもしれません。

那珂川町図書館 (なまけもの)